

目次

- ▶ 多くの患者さんにご利用いただくために……………表 紙
- ▶ 特集 新たな放射線治療がスタート!~新リニアックの挑戦~…2・3ページ
- ▶ 看護部だより 看護週間行事……………4ページ
- ▶ シリーズ ドクターにききましたっ! 女性専用外来のご紹介 …5ページ
- ▶ 病院紹介 病院食の地産地消の取組み……………6ページ
- ▶ コンチェルトのページ……………7ページ
- ▶ 県立ほすびたるニュース・お知らせ……………8ページ

多くの患者さんにご利用いただくために

陽子線がん治療センター長 玉村 裕保



本年4月に「小児がんに対する陽子線治療」が陽子線治療として初めて保険適応となりました。また他のがんに対する陽子線の治療方法も明確にされ「全国統一治療方針」として全国で同一の治療方法による標準治療も開始されました。

そんな折に陽子線がん治療センター長に着任し、4月から5月は組織づくりや体制づくりに追われる毎日でした。早く先生方や多くの患者さんに陽子線治療の良いところをお知らせしなくてはいけないと焦りながらの2か月間でした。何とかホームページをリニューアルし、パンフレットも完成し、皆様に十分ご利用いただける準備ができました。

陽子線治療は放射線治療の一種ですが、従来広く行われているX線を用いた治療と異なり、ブラッグ・ピークを形成する物理学的な性格を有しています。このため光の70%近くまで加速された陽子は体のある一定の深さで完全に止まります。つまり陽子線治療では、その一定の深さ(がんの部位)よりも奥へは陽子線が到達しないので、無駄な照射を防ぐことができ、治療に伴う副作用の軽減が可能です。このため高齢の方でも外来でがんの治療ができ、働きながらの治療も可能です。

またこの陽子が止まる深さは自由に調節することができるため、がん病巣に集中した治療が可能で、陽子線治療ではX線治療よりもより強く治療することにより、X線治療が効きにくい一部のがんに対しても効果が認められています。

さらに福井県立病院の陽子線がん治療センターは福井県立病院という大きい組織にささえられているため、糖尿病や心疾患など多くの病気を持つがん患者さんを総合的にみることの可能な数少ない施設です。事実、がんだけを有する患者さんはまれで、がん以外の病気も同時に診ていく必要があるため、かかりつけ医に通いながら、また専門の医師と連携しながら、陽子線治療に専念できることは極めて重要と思われます。ぜひとも多くの患者さんに当センターをご利用いただければと考えています。

福井県立病院理念・基本方針

理念

私たちは、総合的かつ高度な医療の提供を通じて、県民に信頼され、心あたたまる病院をめざします。

基本方針

1. 心身ともに全人的な医療を提供します。
2. 質の高い医療、特殊・先駆的医療を提供します。
3. 安全管理を徹底し、患者様本位の医療を提供します。
4. 救命救急医療の充実を図ります。
5. 地域医療機関との連携に努めます。
6. 個人情報の適切な管理を行います。
7. 健全な経営に努めます。

「コンパス」には、

「円を描く道具」「方角を示す磁石」の2つの意味があります。

この広報誌が皆様と当院の輪(和)を描くものとなり、また皆様にとって有用な情報を提供することで、今後の皆様の道しるべとなれるよう願いを込めて名付けられました。

昨年度からは地域医療連携通信「コンチェルト」と統合した内容でお届けしています。

特集



新たな放射線治療がスタート！

～新リニアックの挑戦～

前編

陽子線がん治療センター長
核医学科長 玉村 裕保

昨年内閣府より平成 26 年の高齢者人口は過去最高の 3,300 万人で、総人口に占める高齢化率は 1% 増えて 26.0% (前年 25.1%) になったと報告されました。少し増えたなと思っていたら、この先年々増加し、平成 72 (2060) 年には高齢化率は 39.9% に達し、2.5 人に 1 人が高齢者になると発表され、びっくりしました。一方、悪性新生物 (がん) の患者数は全国では 162.6 万人もいて、多くの患者さんが病気に苦しんでいます (厚生労働省平成 27 年 12 月発表)。がんは高齢者に発生しやすい傾向があるため、これから先の高齢化社会においてはがん患者さんがさらに増え、特に高齢者のがん患者さんが増えるものと考えられています。このため、体にやさしい負担の少ないがん治療が必要となり、放射線治療の重要性がどんどん増していくと考えられます。

このような皆様の希望にこたえるため、福井県立病院では今年の 4 月に新たに「放射線治療棟」を増設しました。特に放射線治療の方法は治療機器に依存するところがあるため、最新型の次世代型の放射線治療機器として注目を集めている“True Beam : アメリカ Varian 社製”を導入しました。

この機械はモンスターマシンで、今まで使っていた治療機器と比べて最大で約 8 倍の力 (線量率) があります。これは例えるならば各駅停車の列車と新幹線くらいの差があり、目的地に行く時間が大きく変わるように放射線治療を行うのに必要な時間が圧倒的に短縮されます。治療の時間が短いという事は体調のすぐれないがん患者さんに対しても短時間で治療ができるため、治療の負担を減らすのみならず、時間的余裕があるため十分 (正確に) 腫瘍を狙う余裕も生じます。このため新しく作った「放射線治療棟」の目的の 1 つは「次世代型の精密な放射線治療」を行う事としています。

次世代型の精密な放射線治療とは

近年の放射線治療では治療機器の改良が進み、CT や MRI を基に、ミリ単位で腫瘍を治療する放射線治療計画が (画像上では) 可能となりました。しかし人はどれだけ安静にしても、息をしたり心臓を動かしたりして生きているため、すべての臓器は常に動いています。これに伴いがん自体も常に動いている状態にあります。このため、コンピューター上でミリの単位での治療の準備ができて、体内のがんを狙い撃つことはできません。これに対し福井県立病院では日本で 7 施設のみが持つ「動体追跡照射装置」を用い、わずか 2 ~ 3 mm の誤差で体内の動くがんだけを打ち抜く治療を、肺がんや肝臓がん、前立腺がんなど 376 名のがん患者さんに行ってきました。新しく作った「放射線治療棟」においてはさらに進化した「第 2 世代の動体追跡照射装置」を装備し、現在、安全に使用するための最終調整にはいつています (7 月から稼働)。さらに CT や MRI で腫瘍として見える癌のみならず、PET 画像を基にした目に見えない細胞レベルのがんをも考慮した放射線治療計画を行っています。これは特別なコンピューターを用いてがんの代謝の状態を解明し、目に見えない細胞レベルの代謝も考慮して放射線治療を行う部位を決定する方法で、現在最も注目されている治療計画法の 1 つです。

さらに放射線治療に伴って変化する腫瘍（がん）を解析し、その時の腫瘍の状態に合わせて放射線治療法自体を適時変化させる新しい治療の準備も進んでいます。

次号では、進化した動体追跡照射装置のお話をもう少し詳しくご説明します。

次に「放射線治療棟」を作るにあたり、最新型の治療機の導入と同様に心がけたことを紹介します。

がんになって放射線治療を受けるときに最も大切なこと

実は放射線治療には3つの弱点があるといわれています。放射線治療を受けるときにはこの事をしっかり理解し、治療を受けたいものです。

1つ目は放射線治療は体に優しい治療ですが、放射線をあてた局所には副作用が出るということです。しかし当てる場所により出る副作用が決まっているので、予測し早期に対応することで乗り越えることができます。このためには経験豊かな治療スタッフの助言は欠かせません。

2つ目は放射線治療は予定の治療を完遂して、初めて効果が出るということです。しかも休みなく毎日のように治療を受けなくてはなりません。長いと治療期間は2ヶ月にも及びます。体調管理が可能な施設での治療は重要です。

3つ目は一番重要かもしれませんが、1つの部位には1回しか放射線治療ができないということです。X線治療を行うべきか、陽子線治療を行うべきか、抗がん剤を一緒に行うべきか、手術と組み合わせて放射線治療を行うべきかなど無数の方法の中から、たった1つ、1回きりの治療を選ばなくてはなりません。

福井県立病院では新しく「放射線治療棟」を作るにあたり、最新型の治療機器を入れるだけでなく放射線治療の経験の豊富な専門医師・放射線治療技師・専任看護師を増員し、さらに医学物理士を加え、医師4名を含む計14名のスタッフ構成としました。毎日の治療カンファレンスに加え、定期的に全員で患者さんの状態を把握する話し合いを持ち「放射線治療棟」で治療中の患者さんに寄り添える治療体制を整備しました。

これからも総合病院にある高精度放射線治療部門として、各科の先生と連携し、病気で苦しんでいる多くの方に適切な治療を提供できればと考えています。



県立病院に導入された
次世代型の放射線治療装置

看護週間行事

5月12日は、看護の創設者であるナイチンゲール女史の生誕日です。この日を記念して、「看護の日」が制定されました。

看護部では、5月12日に「つむぐ・つながる みんなの暮らし」をテーマに看護週間行事を開催しました。院内外から、患者さんやそのご家族など大勢の方に集まっていただきました。お茶や生け花、ハンドマッサージ、絵本の読みきかせなどの様々なコーナーで、人とひとつながり「こころあたたまるひととき」を感じ合うことができた1日でした。

ようこそ ♪♪♪
看護週間行事へ



病院スタッフによる
四ツ井2丁目バンド
懐かしい曲やオリジナル曲
を演奏しました。



福井絵本くらぶのみなさんによるボランティア
楽しかった絵本の読み聞かせ



緩和ケアメンバーによる
癒しのハンドマッサージ



看護部
看護週間プロジェクト
メンバー



院内外から、大勢の方に
集まっていただきました。



平成28年度 看護週間行事
つむぐ・つながる みんなの暮らし

開催日/5月12日(木) 5月12日は看護の創設者であるナイチンゲール女史の生誕日であり、この日をさむ5月11日から17日までが、看護週間となっています。

1階 エントランスホール ふれあい図書室「すいせん」

9時30分~12時00分 お茶とお花のおもてなしコーナー 飲んでいた茶室でフチ自由花を楽しむ♪	10時00分~12時00分 癒しのマッサージ やさしいまもめでリラックス
10時00分~12時00分 認定看護師の知恵袋 - 自宅でできる感染予防対策 - 介護者の負担を減らすためのストレス対策 - おむつの悩み解決! おむつの当て方、選び方のコツ	10時00分~15時00分 臓器移植コーナー 臓器移植コーナー HIV/AIDSコーナー 陽子線がん治療センターのパネル展示 「緩和ケア病棟」ってご存じですか がん相談コーナー
14時00分~15時00分 病院スタッフによる 四ツ井2丁目バンド コンサート なつかしい懐かオリジナルの曲を演奏します。 みんなで歌いましょう。	5月11日(水) 12日(木) 華展 13日(金)
2階 小児科外来前 9時30分~10時30分 福井絵本くらぶによる読み聞かせ オカリナの音色と共に♪	

福井県立病院 看護部

茶道部のおもてなし



臓器移植コーナー



陽子線がん
治療センター



華道部のおもてなし



シリーズ
ドクターに
ききましたっ!

女性専用外来のご紹介

「先生、女性専用外来はどんな時に受診すればいいのですか？」

今回教えていただくのは、栗山とよ子 ドクターです！



女性専用外来は、1990年代からアメリカを中心に広がった新しい医学・医療の分野です。産科や婦人科的な女性独自の疾患だけでなく、男女間で差がある疾患、つまり女性がかかる割合が多い病気（膠原病、甲状腺疾患など）、あるいは男性とは症状の出方や治療の効果が異なる病気（高脂血症、骨粗鬆症など）、といった『性差医療』を踏まえた医療を目指しています。

福井県立病院女性専用外来は、2004年5月に診察を開始しました。ここでは、女性の体調にかかわる現状と、受診される患者さんの特徴をいくつかご紹介いたします。

女性の健康状態は、卵巣から分泌される2種類の女性ホルモン（卵胞ホルモンと黄体ホルモン）に大きく影響されます。これらは月経、妊娠、出産だけではなく、コレステロールの調整や血管の柔軟性、骨の形成、さらにはアルツハイマー型痴呆症の防止にも役立っています。

一方で、近年の女性を取り巻く環境の変化、職場や家庭内での様々なストレス、あるいは巷にあふれる多種多様な情報など、女性の心身の健康状態は多くの因子に影響され、そのことが様々な症状を引き起こします。

思春期では、月経不順や月経困難症といった女性ホルモンの未成熟に関連した症状に加えて、やせ称賛の風潮から極端に食事を減らし、拒食症に陥るケースが増加しています。また、学校生活へのストレスから腹痛や下痢、頭痛など身体の症状として現れ、不登校に繋がる場合もあります。

20歳代から30歳代は、女性ホルモンの分泌が最も盛んで心身ともに充実した期間ですが、最近、この年代で更年期障害に似た自律神経失調症状＝若年性更年期症状を訴える患者さんが増えています。無理なダイエットや極端な偏食による栄養不足でエストロゲン量が減少すること、精神的なストレスでエストロゲンの分泌が低下することが主な原因と考えられています。

30歳代後半から女性ホルモンの分泌は次第に減少し、50歳前後になると極端に低下します。すると脳の下垂体・視床下部から女性ホルモンを刺激するホルモンが異常に増え、同時に視床下部に中枢を持つ自律神経の働きも不安定になるため、更年期症候群と呼ばれる様々な症状がおこるようになります。のぼせ、ほてり、発汗、動悸などが典型的な症状ですが、気分の落ち込みやイライラなど精神症状を伴うことも少なくはなく、職場や家庭内の人間関係を悪化させることもあります。症状の程度や期間は個人差が大きく、まじめで几帳面、自製の強い人ほど強く出る傾向があるようです。一方で、更年期症状と思われていた中に甲状腺機能障害が隠れている場合もあります。またこのころから脂質異常症や高血圧症といった生活習慣病や骨粗鬆症も起こりやすくなります。

福井県は女性の就業率が高く、また親世代との同居も多い県です。職場では女性の立場はまだ不利で、男性と同等に評価されるためには相当の努力を要求されます。そして自宅では、家事は女性が担当するのが当たり前という風潮があり、それらのストレスが体調の変化を引き起こすことも少なくありません。

女性専用外来では、身体だけではなく精神的・社会的な背景も含めた全人的な医療を念頭に、診療に取り組んでいます。完全予約制で、診察時間は月曜日と金曜日の午後です。ただし担当は内科医であり、専門的な婦人科の検査などはできません。また、明らかに専門性の高い疾患の場合は、まず専門医の診察をお勧めいたします。

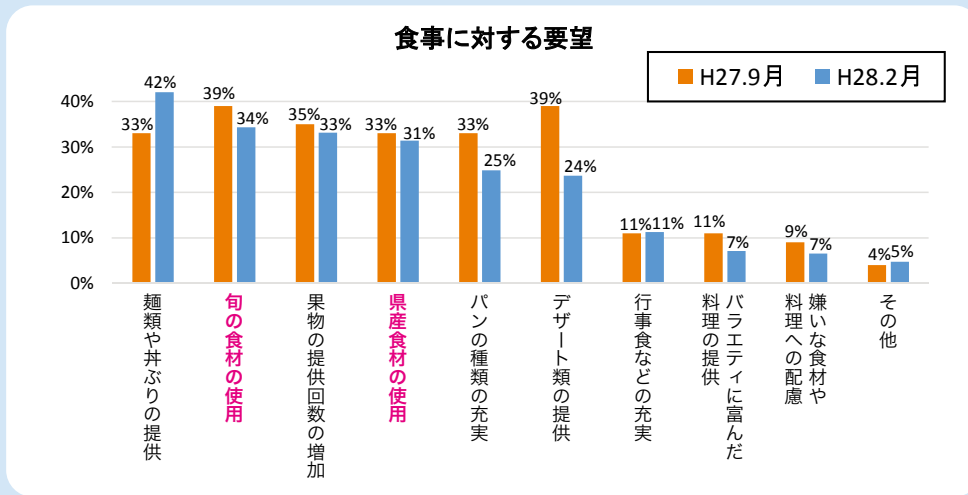


病院
紹介

病院食の地産地消 ～福井県の食材を使用しています～

栄養管理室

病院の食事は、治療の一環であるとともに、入院生活における数少ない楽しみの一つであり、生きる気力の源でもあります。当院では、献立の作成や食材の発注、調理、配膳など一連の業務において、快適で美味しい食事が確実・安全に提供できるように食事の評価と改善の取り組みに努めています。昨年、入院患者さんを対象に実施した嗜好調査では、食事に対する要望について、旬の食材や県産食材の使用が上位となりました。この結果は、農業者や家庭菜園などによる野菜生産などによって県産食材が多く消費されている県民の食生活と関係しているのかもしれない。



平成20年3月福井県地産地消の推進に関する条例が制定されて以降、当院の給食食材全体に占める県内産の割合(使用量ベース)は、平成21年11月の35%から平成27年11月では40%となっています。お米は県内産コシヒカリ1等米100%、梅干しはすべて県内産を提供しています。近年では嗜好調査などの結果を踏まえ、献立作成において県産食材へ配慮するとともに、品質の高い食材を入手するため仕入れ業者の方への働きかけを行っています。現在、さつまいもやキャベツ、ねぎ、人参、大根、ほうれん草、かぶなどの野菜、カレイやイナダ、サワラなどの魚、豚肉など県内産の使用に取り組んでいます。また、県内産食材を使用していることを食事カードなどで患者さんへお知らせしています。



福井でとれた食材を
使用しています。

日本海で育った越前がれいは、ピシッと身が引き締まり、濃厚な味わいとジューシーさが特徴です。どうぞお召し上がり下さい。



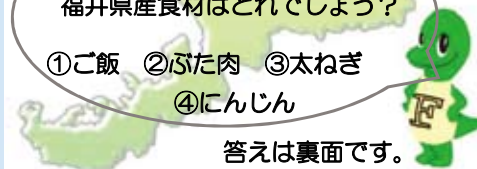
栄養管理室

本日のお食事

Q：本日のメニューに使用している福井県産食材はどれでしょう？

- ①ご飯 ②ぶた肉 ③太ねぎ
- ④にんじん

答えは裏面です。

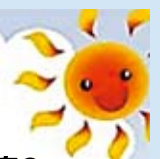


福井でとれた食材を
使用しています。

本日の果物は、福井県産のスイカです。新鮮な旬の果物を

どうぞお召し上がりください。

栄養管理室



CONCERTO

コンチェルトのページ

福井県立病院 地域医療連携通信

地域医療連携に関するアンケート調査の結果を報告します

本年3月、地域医療連携医の先生方に、地域医療連携に関するアンケートを実施させていただきました。一部ではありますが、その調査結果をご報告いたします。

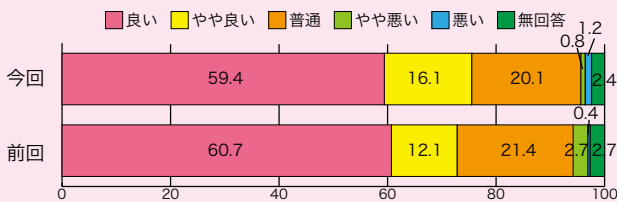
患者さんをご紹介いただいた際の当院の対応等についてお聞きしましたが、2年前に実施した調査結果と比較し、評価が上がった項目のある一方で、評価が下がった項目もありました。高い評価を得られるよう改善を進めていきますので、よろしくお願いたします。

アンケート対象数:地域医療連携医が在籍する455医療機関 回答数:254医療機関 回答率:55.8%

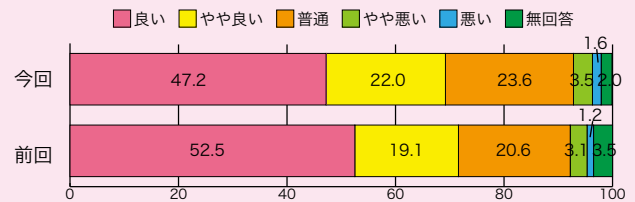
I 報告書について

「報告書の記載内容」について、「良い」、「やや良い」を合わせた率は、前回の72.8%に対して今回は75.5%と増加しましたが、「報告の迅速さ」については、「良い」、「やや良い」を合わせた率は、前回の71.6%に対して今回は69.2%とやや評価が下がりました。

【報告書の記載内容】



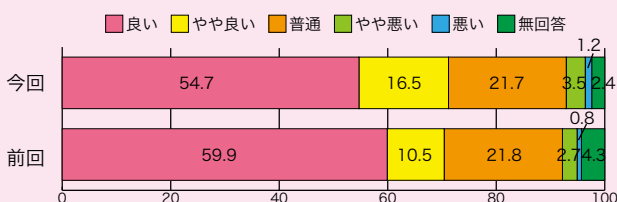
【報告の迅速さ】



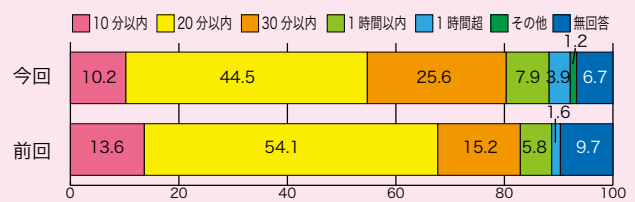
II 地域医療連携推進室の対応

「事前予約に対する返信時間」、「20分を超えて返信が届く場合の事前連絡」の項目については、前回よりも評価が下がってしまいました。今年1月の電子カルテシステムの変更が主な原因と考えられますので、システムに習熟することで返信までの時間を短縮し、事前連絡も徹底するよう改善を進めています。「電話対応」については「良い」、「やや良い」を合わせた率は、前回の70.4%に対して今回は71.2%とやや評価が上がりました。

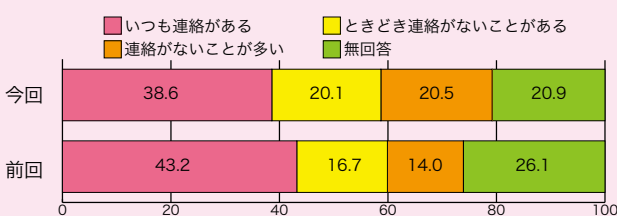
【電話対応】



【事前予約に対する返答時間】



【20分を超えて返信が届く場合の事前連絡】



開放型病床カンファレンス開催スケジュール

H28年10月27日(木) 症例検討/腎臓・膠原病内科
ミニレクチャー/整形外科

H28年12月22日(木) 症例検討/内分泌・代謝内科
ミニレクチャー/脳神経外科

いずれも19:30~20:30 場所/県立病院3階講堂



今年度、新たに地域医療連携推進室に看護師を8名(紹介・逆紹介業務担当として1名、退院支援業務担当として7名)配置いたしました。今後もますます地域との連携に取り組んでまいりますのでよろしくお願いいたします。

<医療機関の皆様へ> 土曜日の紹介患者予約業務開始

平成28年8月から土曜日の午前中(8時30分から12時30分)についても、地域医療連携推進室で地域の医療機関からの紹介患者さんの予約受付を行うことといたしました。

連絡先/地域医療連携推進室
電話 0776 (57) 2900 FAX 0776 (57) 2901

県立ほすぴたる ニュース

患者案内モバイルシステムの導入について

当院では、平成28年4月1日から患者さんのための案内モバイルシステムの導入・サービスの提供を開始しました。



このシステムでは専用登録端末機(1階「なんでも相談」前再来受付機付近に設置:写真参照)からメールアドレスを登録していただくことにより、携帯電話、スマートフォンへの診察室案内メールの配信、診察待ち状況の閲覧(登録完了メールに記載されたURLへアクセス)ができます。専用登録端末機は平日8時~18時まで稼働しており、一度登録すれば登録削除、配信停止するまでサービスを受けることができます。



専用登録端末機

お知らせ

<当院を受診される患者様へ> 紹介状をご持参ください

平成28年度から国の制度が変わり、医療機関の役割分担と連携を進めるため、当院では、平成28年8月1日から他の医療機関の紹介状をお持ちでない患者さんには、医療費のほかに下記のご負担をいただくことが義務化されました。

当院を受診される際には、かかりつけ医などの紹介状をご持参ください。

初診加算料 5,000円(歯科口腔外科の場合 3,000円)

※また当院から他の医療機関へ紹介を行った患者様が、その後他の医療機関から紹介状なしで、当院を受診された場合は2,500円(歯科 口腔外科1,500円)の再診加算料を負担いただきます。

福井県立病院 地域医療連携推進室

TEL/(0776)57-2900
FAX/(0776)57-2901※
受付時間/8:30~18:00
月~金(祝日を除く)

※上記のFAXについては、時間外・土・日・曜日および祝日は救命救急センターへ切り替わります。

緊急の場合は救命救急センターへ
お願いします。

救命救急センター

TEL/(0776)57-2990
FAX/(0776)57-2991



健康長寿の福井



新聞やテレビで、県の情報をキャッチ!

新聞 「県からのお知らせ」(毎月1日、15日に掲載)

テレビ番組 「おはようふくいセブン」(FBC/日曜)

〃 「ほっとふくい」(ftb/1・3土曜)

〃 「まちかど県政」(FBC、ftb/日曜)

広報誌 「県政広報ふくい」(年6回発行)

※ラジオやインターネットでも提供中。

問合せ先:県広報課 TEL/0776-20-0220